

生命科学研究所生理科学専攻における学生履修モデル3

社会的背景

人間の心の働きを科学的に明らかにすることにより、ヒトのヒたるゆえんを理解したいという社会的関心の拡大

研究の関心

ヒトの脳活動の非侵襲的計測法に認知心理学の手法を応用して、健常人の高次脳機能の仕組みを明らかにしたい

修士課程又は博士前期課程(境界領域分野)

〇〇大学大学院文学研究科心理学専攻修了

(認知心理学、言語学、教育心理学、統計学)

修士論文:「反復プライミングにおける空間的注意の影響の研究」視覚刺激の心理強度を空間的注意の有無により操作した状態でプライミング効果の大きさを測定し、空間的注意がプライミングに影響することを心理学的に示した。

生理科学専攻(3年次編入学)

入学後の履修課程

3-5年次

「フレッシュマンコース」研究者と社会の関係についての理解を深め、将来社会の中で責任ある役割を果たす研究者に成長していくための心構えを身につける。

共通専門科目

「生命科学プログ्रेसⅢ・Ⅳ」、「生命科学実験演習Ⅲ・Ⅳ」、

「生命科学論文演習Ⅲ・Ⅳ」

専攻専門科目

「基盤神経科学Ⅰ・Ⅱ」脳の情報処理メカニズムの理解に向けて、神経・グリア細胞の特性と機能、感覚や運動機能を担う神経メカニズムについて学ぶ。

「システム脳科学Ⅰ・Ⅱ」運動、視覚、言語、社会的認知の脳内メカニズムについて、生理と病態の両面から学ぶ。

学位論文の作成

論文テーマ「視覚パターン弁別時における注意によるヒト脳活動の変化の研究」視覚パターンを弁別しているときのヒトの後頭葉の活動が、特定のパターンに注意を向ける時に前頭葉の活動と相関して変化することを脳磁図、機能的MRIと経頭蓋磁気刺激を併用することにより立証する。

学位の種類:博士(学術)

進路例 心理学と認知神経科学の学際的な能力を身に付けた研究者として高等教育機関、研究所に身をおきながら医療機関とも共同研究を行い、高次脳機能の基礎研究と共に老齢や精神障害の仕組みの解明に貢献する。